

平成29年度第3回江別市スポーツ推進審議会開催結果

1. 開催日時

平成30年2月23日（金）午後4時00分～午後4時40分
江別市教育庁舎大会議室

2. 出席者

・スポーツ推進審議会委員：6名

金内晴夫 会長、花井篤子 副会長、小林照美 委員、山下和人 委員、
松田和子 委員、古川孝行 委員

（欠席：小野善弘 委員、加藤隆明 委員、原 大輔 委員、袴田丈晴 委員、
佐藤敦子 委員）

・教育委員会事務局：6名

月田教育長、萬教育部次長、三浦スポーツ課長、板東スポーツ係長、
渡辺主査、中島主任

3. 開催結果

（1）開 会

委員の過半数の出席を確認し、スポーツ課長が開会を宣言。

（2）教育長挨拶

教育長からあいさつ

（3）会長挨拶

金内会長からあいさつ

（4）諮 問

第6期江別市スポーツ推進計画の策定に係る諮問

スポーツ課長が諮問について説明し、教育長が諮問書を読み上げ、金内会長に交
付（教育長は他の公務のため退席）

（5）協議事項

第6期江別市スポーツ推進計画における施策体系（案）について

スポーツ課長から、資料に基づき説明した。

○スポーツ課長：

それでは、「第6期江別市スポーツ推進計画における施策体系（案）」資料についてご

説明します。

前回のスポーツ推進審議会においても説明しておりますが、次期計画策定にあたっての基本的な考え方については、昨年3月に策定された国の「第2期スポーツ基本計画」と本年度中に策定予定である北海道の「第2期北海道スポーツ推進計画」の動向に注視しながら策定するとしていることから、先ず国と北海道の計画の推移についてご説明します。

資料2をご覧ください。最初に国のスポーツ基本計画の推移であります。左側の列が、第1期スポーツ基本計画で、右側が、昨年3月に策定された第2期スポーツ基本計画であります。

以前にもお伝えしましたが、新しい第2期スポーツ基本計画では、2020年に東京オリンピックがある関係もあり計画の体系が大幅に変わっております。

主だった、変更部分だけお伝えします。右側の列の第2期スポーツ基本計画の欄の内、赤字の部分をご覧ください。

- 1 スポーツで「人生」が変わる！
- 2 スポーツで「社会」を変える！
- 3 スポーツで「世界」とつながる！
- 4 スポーツで「未来」を創る！

「スポーツ参画人口」を拡大し、「一億総スポーツ社会」を実現すると、今までにない大胆な表現で記載されており、ポイントは「スポーツ参画人口」をどれだけ拡大できるかが争点となっております。

それでは、「スポーツ参画人口」を拡大するために具体的にどんなことをするか、次の赤字「1 スポーツを「する」「みる」「ささえる」スポーツ参画人口の拡大」と記載されており、今まではスポーツを「する」ことだけが注目されていましたが、スポーツ活動とはそうではなく「みる」「ささえる」ことも、スポーツ活動の一環ととらえスポーツ参画人口を拡大していこうとする考えであります。

次に赤字の丸印の③、「ビジネスパーソン、女性、障害者のスポーツ実施率の向上と、これまでスポーツに関わってこなかった人へのはたらきかけ」についてですが、これは今までなかった項目で、特に、女性、障害者のスポーツの実施率を向上することが大切であると強調しております。

次の赤字、質的充実ですが総合型地域スポーツクラブの質的充実についてですが、総合型地域スポーツクラブについては、全国にある程度設置されたことを踏まえ、今後は、質的充実を求めるために育成・推進から質的充実に変更されております。

次の赤字、2 スポーツを通じた活力があり絆の強い社会の実現と記載しておりますが、今までは、スポーツをすることがメインでありましたが、これからは、スポーツを通じて、社会との繋がりを強化していこうという考えから、このような項目が追加されております。

その下には、先ほど説明した① 障害者スポーツの振興等、③スポーツを通じた女性の活躍促進が、また記載されております。

次の赤字（２）スポーツを通じた経済・地域の活性化と記載されております。こちらも、新たに加えられた部分であり、スポーツ大会や合宿誘致などをビジネスチャンスととらえ地域経済を活性化していこうという考えであります。

続いて、次のページ北海道のスポーツ推進計画の推移ですが、こちらも、国と同様大幅に変わっており、変更点は右側の列の赤字の部分で、赤字の部分を中心に説明していきます。最初の赤字、ラグビーワールドカップ 2019 や東京 2020 オリパラなどのスポーツビッグイベント開催を契機にと記載してあるとおり、ラグビーワールドカップ・オリンピックを意識したつくりとなっております。

その下の赤字、国同様スポーツを「する」「みる」「ささえる」と記載されており、次にスポーツで“変わる”北海道民、スポーツで“変える”地域・経済・共生社会、“スポーツを通じた人づくり”と記載されております。

3のめざす姿についても、「スポーツを実際に“する”、競技大会やプロスポーツを“みる”、ボランティアやサポーターとしてスポーツを“ささえる”、スポーツ参画人口の拡大を図る」とし、「する」「みる」「ささえる」が強調されております。

これ以降の、赤字の部分についても、地域の活性化、成長産業化など国の動きとほぼ同様の内容が、記載されております。以上が、国・北海道の計画の推移です。

では、江別市の次期計画の施策体系図（案）についてご説明しますので、次のページをご覧ください。

左側の列が現計画の体系図、右側が次期の計画の施策体系図（案）であり、変更した部分は、赤字の部分であります。

右側の列、新計画の体系図を中心に説明しますので、ご覧ください。

まずは、上段から3行目の基本理念から説明します。赤字で【スポーツで築く「健康都市えべつ」】を加えました。基本理念の「いつでも、どこでも、だれでも、いつまでもスポーツを」をそのまま残し、その下に健康都市宣言を意識してスポーツで築く「健康都市えべつ」を追加しました。

次に、基本目標毎に説明させていただきます。

基本目標の三つである、Ⅰ 生涯スポーツの推進、Ⅱ 地域スポーツ活動の推進、Ⅲ スポーツ環境の整備・充実については、変更しておりません。

それでは、基本目標 Ⅰ 生涯スポーツの推進から説明します。Ⅰ 生涯スポーツの推進は、二つの基本方向、基本方向1 生涯各期におけるスポーツを「する」機会の提供と充実、基本方向2 各領域におけるスポーツ活動の充実と関係機関・団体との連携とし、そのうち基本方向1の赤字部分、スポーツ“を「する」”機会“の”提供とし、左の列に現計画の基本目標を記載しておりますが、「スポーツ活動の機会提供と充実」から、国の計画を意識して、「する」というキーワードを追加しました。

次に、基本方向2は、右端の施策項目の欄に、(4)障がい者のスポーツを移動し、赤字で記載のある(5)女性のスポーツを追加しました。

これも、国の計画を意識して、各領域の部分に、障がい者スポーツと女性スポーツを加えました。

次に、基本目標Ⅱ 地域スポーツ活動の推進についてですが、基本方向は、1 地域スポーツ活動の活性化促進として、赤字で地域スポーツと記載しました。これは現計画では“団体活動”の促進化と記載されておりますが、記載内容をみていると団体活動だけではないことも含まれているため“地域スポーツ”と変更しました。

次に基本方向2 地域に密着した総合型地域スポーツクラブの育成・支援の内、「育成」を削除しました。これは、国の計画で、総合型地域スポーツクラブは、質的充実に変更となったため、江別市でも質を充実させるための支援をするため、「育成」を削除しました。

基本方向3 スポーツ・健康づくりの情報提供や相談体制の充実の内、相談体制を削除したのは、相談体制のメインとなるのは、基本方向4 えべつ市民健康づくりプラン21等と連携したスポーツや運動を通じた健康づくりの推進がメインになると考え、基本方向3から削除し、そのかわりに、基本方向4の右端の(2)の赤字、保健・福祉機関等との連携による相談体制の充実を追加しました。

次に、基本目標Ⅱの施策項目について説明しますので、右端をご覧ください。基本方向1 地域スポーツ活動の活性化促進の内、赤字(2)地域スポーツを「ささえる」指導者及び育成母集団の育成と記載しました。

ここでは、「ささえる」というキーワードを追加しました。育成母集団とは、少年団活動における父母会の活動のことで、まさにスポーツを「ささえる」活動となります。

次に少し飛んで、赤字の(6)身近なところで競技スポーツを「みる」機会の提供を施策項目に追加し、国の計画にあるスポーツ「する」「みる」「ささえる」の「みる」に当たる部分をここに追加しました。

最後に、Ⅲスポーツ環境の整備・充実についてですが、基本方向の1 スポーツ施設の計画的な整備と充実とし、計画的を加えた根拠は施設の老朽化が著しい中、今後、青年センターを含めた市内のスポーツ施設を計画的に整備する必要があると考え追加しました。

それを踏まえて、右端の施策項目にも、赤字(2)に公共スポーツ施設整備に関する計画の策定検討と追加しました。

赤字の(3) 北海道の公共施設・民間・大学との連携によるスポーツ施設の活用促進については、現計画では基本方向2 スポーツ施設の適正な管理運営に記載されておりますが、民間・大学施設の適正な管理を、市でどうこうできる話ではないので基本方向1のスポーツ施設の充実の基本方向に追加しました。

以上が「第6期江別市スポーツ推進計画における施策体系(案)」の説明です。

○議長（金内会長）：

今説明がありました、なにか質問ありませんでしょうか。（小林委員挙手）
小林委員どうぞ。

○小林委員：

女性のスポーツというのは、どういうものでしょうか。普通どの種目も男性・女性もやっている感覚があるのですが、ここで女性のスポーツと謳っているのはどういったものでしょうか。

○事務局（スポーツ課長）：

女性のスポーツの実施率を検証しましたところ、働き盛り・子育て世代の方がスポーツをする機会が少ないということで、子育ての中でも女性のスポーツをしやすいような環境作りというところで、こういった項目を追加いたしました。

○小林委員：

種目というのではなく環境ということなのですね。

○議長（金内会長）：

よろしいでしょうか。

私も気になったことがあります、江別市は健康都市宣言しているけども、スポーツ都市宣言はしてないですね。江別市はスポーツ賞など、他の市町村に比べたら大々的にスポーツに対して奨励しているので、審議会には関係ないかもしれませんが、スポーツ都市宣言はあってもいいような気がするのですが。

○事務局（スポーツ課長）：

健康都市宣言の背景としましては、全庁的に健康福祉やスポーツも含めて、取り組んでいくという形の考えであります。

○議長（金内会長）：

健康の中にスポーツを取り入れていくということですね。
他に意見ありますでしょうか（意見無）

（6）報告事項

報告事項①平成29年度青少年スポーツ賞・スポーツ奨励賞・教育委員会賞について

報告事項②平成30年度スポーツ関係予算について

報告事項①平成29年度青少年スポーツ賞・スポーツ奨励賞・教育委員会賞について
スポーツ係長から、資料に基づき説明した。

○スポーツ係長：

これらの賞は、スポーツ大会において優秀な成績を収めた青少年を表彰するものです。選考基準でございますが、スポーツ賞は、全国大会で3位以内、または通算2年以上の入賞、または全国記録の更新、スポーツ奨励賞は、全道規模の大会で優勝、全道記録の更新、教育委員会賞は、全道規模の大会等で2位又は3位という基準となっております。

贈呈式は、明日2月24日（土）に、えぼあホールで開催し市長並びに教育長から贈呈を行います。資料3の1ページをお開き願います。

青少年スポーツ賞の受賞者は、8個人、1団体でございます。個人では、立命館慶祥高等学校3年生の田邊ジョーさんが陸上競技の全国大会男子400mハードルで第3位、立命館慶祥高等学校2年生の臼井文音さんは同じく陸上競技の全国大会女子100mで第2位、立命館慶祥高等学校2年生の吉田梨緒さんは同じく陸上競技の全国大会女子走幅跳で第3位、江別高等学校3年生の不藤祐太さんはパワーリフティングの全国大会男子74kg級で第3位、とわの森三愛高等学校1年生の大谷直希さんは体操の全国大会跳馬で第1位、大麻東中学校3年生の畑知風さんは武術太極拳の全国大会規定難度競技太極拳の部で第1位、大麻中学校3年生の鶴飼瑚子さんは武術太極拳の全国大会女子42式太極剣の部で第3位、文京台小学校6年生の大久保ひかりさんは卓球の東アジア大会に日本代表チームの一員として出場し、女子シングルスで第3位の成績を、それぞれ収められたものです。

次に団体ですが、対雁バルタンズブルーウイングがドッジボールの全国大会で準優勝の成績を収めたものであります。

資料2ページから4ページにかけては青少年スポーツ奨励賞の受賞者でございますが、17個人、16団体、合計33件の受賞となっております。受賞者や成績などは記載のとおりでございます。

次に、資料5ページから6ページの教育委員会賞スポーツ部門の受賞者でございますが、15個人、12団体、合計27件の受賞となっております。受賞者や成績などは記載のとおりでございます。

7ページには、年度別受賞者数の推移をつけておりますが、本年度、各賞を合わせた受賞数は、69件となりました。

報告は以上です。

（意見・質疑等無）

報告事項②平成30年度スポーツ関係予算について
スポーツ係長から、資料に基づき説明した。

○スポーツ係長：

資料4をご覧ください。

平成30年度のスポーツ関係予算につきまして、主だったところの予算について掲載しております。前年度と変更のある事業や予算の増減が大きい事業について、ご説明させていただきます。

上から5番目の「市民体育館改修整備事業」は、市民体育館弓道場の拡張工事にかかる経費です。

6番目の「青年センター改修整備事業」は、青年センターのプール水槽改修工事のほか、ろ過機のろ布の取替工事を行うものです。また、29年度の補正予算対応となるため記載しておりませんが、昨年12月25日に発生した青年センタープール棟屋根の破損事故対応としまして、本復旧工事を行う予定です。これらの改修工事に伴う各施設の部分休館につきましては、議会での議決により予算が確定しましたら、関係各所との調整を行ったうえで決定し、施設内での掲示のほか、広報えべつや市及びスポーツ振興財団のホームページなどを活用し市民周知を行う予定です。

8番目の「屋内体育施設管理運営事業」につきましては、平成18年度から4体育館に指定管理者制度を導入し、平成30年度から第4期目に入ります。指定管理者は第3期から引き続き、一般財団法人江別市スポーツ振興財団でございます。第4期の指定管理業務計画に基づき、前年度から約520万円の増となっております。

また、10番目のあけぼのパークゴルフ場管理運営事業及び12番目の森林キャンプ場管理運営事業も指定管理料であり、同じく平成30年度から第4期目となります。これらの指定管理者は、いずれも第3期から引き続きエコ・グリーン事業協同組合です。こちらも第4期の指定管理業務計画に基づき、前年度と比べ増額となっております。

9番目のスポーツ少年団補助金、11番目の体育協会補助金につきましては、会員数や事業内容によって毎年変動しますが、平成30年度は少年団の補助金額は微減、体育協会も、単位団体数や全道大会の回数の減により補助金額は微減となっております。

下から3番目の「スポーツ大会等振興補助事業」につきましては、一般財団法人江別市スポーツ振興財団が実施する原始林クロスカントリー大会などのスポーツ大会を開催する事業、トレーニングに関する相談や指導を行う事業、スポーツ指導者を養成する事業に対する補助で、必要経費の増により若干の増額となっております。

次の「スポーツ合宿誘致推進事業」は、道外からの合宿団体に対して、空港・宿泊施設・練習場所等の間の送迎サービスの提供、野幌総合運動公園等の使用料の半額補助、市内特産品の提供を行っており、引き続き同様の支援を計画しているもので、予算としては15団体分を見込んでおります。

今年度の実績は、高校・大学の野球、フィールドホッケー、バスケットボール、バレーボールといった団体に加え、水球の日本代表チームなど、現時点で合計13団体、454人への支援を行ったところ。合宿に来ていただいた選手と、市内の選手やこど

もたちとの交流の機会を作ることにより、スポーツ振興に繋がりたいという考えで行う事業ですので、委員の皆様からも情報やアイデア等があれば、ぜひお知らせいただきたいと存じます。

最後のパラ・スポ体験会開催支援事業は、東京オリンピック・パラリンピックを契機に、パラリンピック競技の紹介や障がい者スポーツを多くの方に体験してもらう機会として開催するイベントへの補助でございます。

これらの予算につきましては、3月の定例市議会の議決を経て、新年度予算として措置されるものでございます。

以上、30年度スポーツ関係予算についてご報告いたしました。これらの事業は平成26年度からスタートした第6次総合計画「えべつ未来づくりビジョン」や、「第5期江別市スポーツ推進計画」に基づき実施するもので、本審議会におきまして、ご意見やご指摘をいただければ、今後の各種スポーツ振興施策に反映させてまいりたいと考えております。以上でございます。(意見・質疑等無)

○議長（金内会長）：

平成30年度の予算について、説明がありましたが、質疑はございませんか。

私が気になったのは、大変だったと思うのですが青年センターのプールの屋根が剥がれたのは、かなり老朽化していて、そこだけの問題ではなくて色々なところにしわ寄せがきているのではないかと。臨時処置としてブリックをお願いして、急場をしのいだというのは、非常に対応としては良かったのではないかと思います。

最後に、その他ですが、委員の皆様から何かございますでしょうか。(意見無)

事務局（スポーツ係長）

○スポーツ係長：

今回の審議会の開催は、新年度の7月頃を予定しております。会議の内容につきましては、第6期江別市スポーツ推進計画に係る素案の審議、平成30年度のスポーツ関係事業の報告などを予定しております。時期が来ましたらご案内させていただきますので、よろしく願いいたします。以上でございます。

○議長（金内会長）：

ほかにありませんか。無いようですので、以上をもって、第3回江別市スポーツ推進審議会を閉会いたします。委員の皆様、ご協力ありがとうございました。

(7) 閉 会

午後4時40分 終了